



明治大学校友会 清瀬地域支部

# MEIJI NEWS

創刊号  
2014.3.1

発行：明治大学校友会清瀬地域支部 編集：広報部 発行責任者：粕谷 弥太郎

〒204-0022 清瀬市松山 1-27-1 TEL042-492-0611



「清瀬地域支部旗」授与式 平成24年7月28日 母校「アカデミーコモン」にて

清瀬地域支部発足にあたり



支部長  
粕谷 弥太郎  
昭28年政経学部卒

いよいよ広報誌の創刊にこぎつきました。地域支部が発足し、一年半、七十五名でスタートしましたが、未加入者にはたらきかけ昨年未までは八十八名と十三名の増加をみました。

「明治は一つ」当地域ではどう交流し活性化していくか。毎月定例の役員会も多数の出席で意見交換も活発に行われ、先ず行事を実行しようとしてトボールは今井幹事がリーダーシップを発揮十四名が参加、ウォーキングは浅井幹事が、麻雀大会は福島幹事というように積極的に活動を進めております。さすが明治魂でしょうか。地域支部設立準備会から約三年、発起人八名で多摩支部岩崎副支部長、西山組織部長（現幹事長）の強力なご指導と熱意で地域支部は順調なスタートができました。心から感謝申し上げます。

今後の校友会の重要な課題は、年齢を超えての交流であり、特に若い世代の参加が不可欠です。

是非、多くの方の参加を期待します。

「明治は永遠に・・・」

清瀬地域支部の目指すところ



幹事長  
和田 人男  
昭33年法学部卒

明治大学校友会清瀬地域支部は、産声を上げて三年目を迎えました。支部活動も少しずつ軌道に乗り始めています。私達は学校を卒業すると母校との係わりが稀薄になりがちです。就職すると職場における人間関係が重視されることは仕方のないことでしょう。

また、退職すると同じ職域を通じた同僚達との集いが年々難しくなってきました。

校友会は会員相互の親睦と交流を図ると共に大学を賛助することを目的として地域ごとに設立しています。

したがって、以前同僚達との集いに代わる集いの場を提供し、校友同志のつながりを意識できる場として大切なものだと考えています。殊に高齢になるに従って『ひきこもり』がちになりますので、お互いに通じ合える校友会活動を通して充実した生き方も目指してみませんか。

今後も校友会活動にご協力願います。

地域支部発足と会員募集について

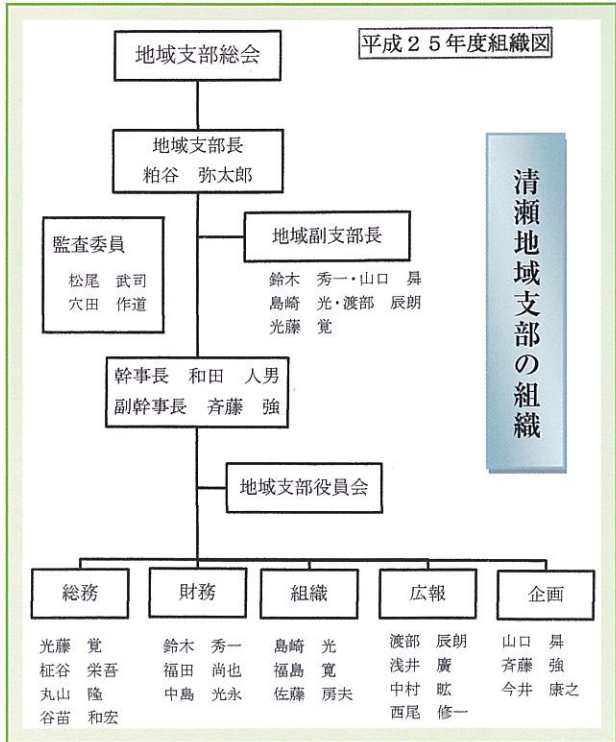


組織部長  
島崎 光  
昭31年商学部卒

母校明治大学は、平成二十三年に創立百三周年を迎え大胆な改革とキャンパス作りを行い、大躍進しつつあります。校友会は、母校の発展、充実へ貢献するための改革を進めています。多摩支部では組織強化を図る目的で市単位の地域支部作りを進めています。

我が清瀬市には四百三十名以上の校友を有しながらも支部未結成でした。四年前、有志により「清瀬地域支部」設立準備を開始、先ず中高年者を対象に会員募集することになりました。発起人数名による個別勧誘の結果七十五名の参加を得ました。出身学部は全学部に及び多彩な顔ぶれでした。

そして平成二十四年七月、多摩支部十七番目の地域支部として誕生したのです。平成二十五年度は更に会員の増加を計り、目標を百名とし、市内在住校友全員を対象に勧誘することとしました。経費節減の観点から役員全員による加入案内状の作成・配布活動を実施しました。結果は、新入会者十三名



◎会費納入のお願い!  
平成二十五年度の会費(二千元)を未納の方は同封の郵便振替用紙にてお振込をお願いします。

でした。一方、高齢、病気療養中などによる不参加者三十四名、転居者二十数名、返信・反応の無かった校友が二百名近くあったのは残念でした。

特徴として、若年層の参加が少ないこと、ただ不参加者の中には、現在は無理だが将来は、女性校友の中でも、現在子育て中、将来参加希望と返信をいただいた方もいらっしゃいました。明るい希望です。皆様、今後ともよろしくご支援ください。

## 多摩湖一周ウォーキング

昭33年文院卒 浅井 廣

清瀬支部主催の多摩湖一周12kmウォーキング大会が十一月二十三日実施されました。当日は快晴、多摩湖周辺の雑木林は鮮やかな紅葉に包まれていました。参加者は市報でも募集、六歳から八〇歳までの二十四名が参加しました。

朝九時三〇分、和田幹事長の挨拶と準備運動後出発。各々初対面にもかかわらず打解け、紅葉の美しさに感嘆しながら軽やかに約二時間で食事場所に到着。多摩湖が一望、湖面が輝く絶景地でした。食事や記念撮影などで楽しく過ごし残り4kmのゴールを目指して出発。ほどなく右手に西武ドームを眺めながら駅前広場に次々ゴール、参加者全員が完歩できました。

一人一人に

「完歩証」が手渡されると参加者から達成感の拍手と笑顔であふれていました。

初めてのウォーキング大会は大成功で幕となりました。



見事に全員が完歩達成

## 初めてのゲートボール

昭32年経営卒 今井康之

「始めてみませんか」明治大学校友会地域支部発足当時に役員の方々に声をかけていました。

昨年七月の役員会で、「ゲートボールを教えてもらおうか・・・」との声があつたのですが、内心はもう少し高齢になってから、まだ、早いのでは等々・・・多くの方はそう思ったのではないでしょうか。ところが昨年九月から十名を超える会員の方々が、校友会活動のスポーツとしてゲートボールを始めました。始めてみたら、どうしてナカナカ、皆さん結構ハマッてました。上手になって家族とご一緒にどうですか。

現在第一、三土曜日の午後一時半から、元町のゲートボール場で活動しています。

(清瀬市ゲートボール連盟会長)



ゲートボールを楽しむ皆さん

### ◎「ゲートボール同好会」

初心者教室を用意しています。  
お気軽にご相談ご参加をお待ちしています。  
問合せは 今井まで  
電話 042-495-6076

## 親睦麻雀大会

昭37年政経卒 福島 寛

本年一月二十六日に清瀬地域支部主催の麻雀大会を駅近の麻雀荘「たんぼぼ」にて開催しました。

今回は地域内の明大OBを対象に、案内状をポスティングし、参加呼びかけを行った結果、八名の方が応募され、二卓で行われました。大会は半チャン四回戦の合計点数を競うものです。今回参加者は現役雀士もいれば、十数年ぶりに牌にふれたという方もおり、多士済々のメンバー構成で、和気あいあいの中、楽しみながらの麻雀大会となりました。

結果は一位和田人男さん、二位福島寛さん、三位今井康之さんでした。

大会終了後の皆さんの顔には充実感が溢れているように感じられました。



学生気分に戻って真剣顔 麻雀荘「たんぼぼ」



平成 25 年 12 月 15 日（清瀬駅前「魚久」2階）



平成 24 年 12 月 16 日（清瀬駅前「魚久」1階）

新年会と忘年会

昭30年商卒 山口 昇

平成二十六年の新年会は、一月十九日の役員会で急遽、開催決定。参加者は九名と少人数でしたが、「魚久」に集結、『ここはお江戸か、神田の街か・』の明大節などで大盛況でした。そして鈴木副支部長の一本締めで閉会となりました。

忘年会は、平成二十四年十二月十六日、当会結成して、初めての催しでもあり、市報で開催をお知らせしたところ、二十一名の参加者がありました。宴は「学生生活の思い出話」などで花を咲かし、和気あいあい有意義な時間を過ぎました。最後は皆で肩を組み、「振れ振れ明治！」の力強い音頭と拍手で閉会となりました。また、平成二十五年の忘年会は開催連絡方法を会員協力によるポスティング方法（配達）をとりました。

結果十五名の参加者でありましたが、宴の盛り上がりは最高、「来る年も頑張ろう！」と和田幹事長の挨拶、校歌斉唱でお開きとなりました。



編集後記

やっと創刊号発行にこぎ着けました。多くの役員の積極的な支援協力があったからです。有難うございました。よりよい会報を目指したく、ご意見ご感想をお願いします。（広報部）

清瀬市石田波郷俳句大会について

昭46年法卒 梶谷 榮吾

「清瀬市石田波郷俳句大会」をご存知ですか。昭和を代表する俳人の石田波郷は明治大学出身です。波郷が清瀬の東京病院で療養した縁で没後四十年を記念し、二〇〇九年から清瀬市の支援により同大会が始まりました。

この事業に尽力した俳句結社「隗」の代表大山雅由氏が昨年十一月に急逝し、奥様の大山恭子さん（昭和四十五年文卒、清瀬明大校友会会員）が隗の新代表になり、この大会のほうも承継することになりました。

この事業を主催する清瀬市石田波郷俳句大会実行委員会には恭子さんのほか今年から私が委員として参加することになりましたが、その席で波郷の母校である明大校友会の本事業に対する協力を求められました。

二月の役員会において、恭子さんから本事業の支援要請があり、清瀬明大校友会としても今後、俳句同好会を設けて協力していくことになりました。「俳句」を始めたい、興味を持つている等々、皆様の参加を募っています。

本年の大会は十月二十六日（日）です。皆さんのご協力をお願いします。

お問合せは左記へ

電話〇四二―四九五―〇〇五九 梶谷 まさや